

2年 道徳学習指導案

授業者 井上 創

1 主題名

「命のつながりの理解とそれに応える生き方」(内容項目 D(19) 生命の尊さ)

2 資料名・著者・出典

「猟師になりました。あと、炎上のこともちょこっと。」(畠山 千春 著)

ブログ「ちはるの森」より <http://chiharuh.jp/?p=3154>

3 主題と資料について

(1) ねらいとする価値

今回の主題は内容項目D(19)「生命の尊さ」から「命のつながりの理解とそれに応える生き方」とした。

平成27年3月一部改正中学校学習指導要領(以下改正指導要領)解説によると、「生命を尊ぶとは、かけがえのない生命をいとおしみ、自らもまた多くの生命によって生かされていることに素直に応えようとする心の現れ」であり、「生命を尊ぶためには、まず、自己の生命の尊厳、尊さを深く考え」、「生きていることのありがたさに深く思いを寄せることから、自己以外のあらゆる生命の尊さへの理解につながるよう指導する」よう求めている。

本授業では、資料の著者の視点を借りて我々が多くの命を糧に生きていることに向き合い、それに素直に応えられるよう、話し合いを通じて一人一人の考えを深めていきたい。また、ここでいう素直に応えるとは、例えば、食事としていただいている命に対して感謝の気持ちをもつことであり、多くの命に支えられて生かされている自らの命に対してありがたいと感じることである。

(2) 主題と資料の関連

資料の著者は、自給自足のライフスタイルを目指し平成23年に千葉県いすみ市に移住、その後福岡に移り、平成25年1月に猟師となった畠山千春さんである。本資料「猟師になりました。あと、炎上のこともちょこっと。」は、畠山さんのブログ「ちはるの森」にて平成25年11月15日に更新(執筆)された記事で、授業者が同年、千葉市現場研究員として自作資料を探していた時に見つけ、彼女の生き方を生徒たちにも伝えたいと感じて、著者に授業での資料の使用許可を得て、プリント用に体裁を直したものの前半部分である。著者は猟師であり、猟師は生きるために他の動物の命をいただくのが仕事である。著者は本記事で「自分が何かの命なしには生きていけないことを認めて、感謝して、自分の手で絞めたものを食べる。そういう身の丈にあった暮らしをすることが、命に対して誠実な生き方なんじゃないかと思っています。」と語っている。この著者の生き方は、生徒が生命の尊重について考えるのに十分な資料であると考えられる。

(3) 資料の概要

本資料(この記事)は、平成25年4月16日にアップした記事「うさぎはかわいい味がした。うさぎ狩りと解体してきたよ。」とそれに対する大量のコメントを受けて書かれている。内容は、前半で、ブログの炎上を受けて「命のことは答えがあるものではないのでいろいろな考え方があって当然」と考えたこと、うさぎを持っている写真で著者が笑顔である理由、自分のライフスタイルと動物の命に対しての考え方や向き合い方などが率直に書かれている。

(4) 資料の採用についての補足

本時の資料としては割愛したが、記事に対する読者のコメント数は両記事共に200を超え、批判や中傷、賛同、擁護、応援などで溢れていて大人でも価値や判断の分かれる資料であることがよく分かる。

ところで、この資料を通じて伝えたいと感じた点は、主に以下の3点である。

- ・ 自分は何かの命なしには生きていけないこと
- ・ 自分を支えてくれている命に感謝すること
- ・ 多くの意見があり、人それぞれ考え方があるということ

このような経緯から、記事の内容から「D(19)生命の尊さ」を伝えたいと思うと同時に、記事の内容かつ表現全体として「B(9)相互理解、寛容」としても伝えたいと感じている。

4 生徒の実態

本学級は、男子20名、女子17名の37名である。2年進級当初はやや落ち着きがなかったものの、現在は多くの生徒が落ち着いて人の話を聞くことができる。中には、活動的で人の長所を見つけるのが上手な生徒や、明るく友達とともに楽しく学校生活を送る生徒、目立たないが思いやりがあり係の役割をしっかりと行える生徒などがある。また、道徳及び他教科等の学習において、総じて素直に前向きに取り組んでいる。

生徒は、本年8月31日の道徳の授業で、中学生の新しい道2の「こんにちは、赤ちゃん」を題材に、生命の尊さを学習した。この際「これまでの経験で生命の尊さを一番感じたのはどのような言葉や場面か」の問いに対する答えと、この授業で感じたことは以下の囲みの通りである。このことから、多少の個人差はあるものの、みな命に対して真剣に考え、大切にしようとする姿勢を持っていることが分かる。本時は、自分たちが、大切にすべき他の動物の命をいただいて生きている事実と向き合うが、これまで深くは考えてこなかった生徒が多いと思われる。以前の授業とは違う命のつながりを知り、これに応える生き方について考えさせたい。

【これまでの経験で生命の尊さを一番感じたのはどのような言葉や場面か】

・親戚が亡くなったとき(9) ・赤ちゃん(妹・弟)が生まれたとき(4) ・家族を亡くした人をテレビで見て(3) ・犬の殺処分を知って(3) ・身近な動物(鳥・ペット・小学校のリス他)が死んだとき(2) ・アリを踏んじゃいけないよ／アリをよけて歩いてね(という言葉)(2) ・高いところから落ちた夢を見て ・小さな弟が転んだとき母がすぐピアノを止めてけがの確認をしたのを見て ・しばらく会ってなかった曾祖母が自分を覚えていてくれたこと ・公園に血まみれの鳥がいて近づいたら一生懸命逃げていった場面 ・アリとか虫を殺してしまったとき(申し訳ないと思って) ・被災地で助け合っていた場面 ・24時間テレビで人が懸命に生きる姿を見て ・テレビで犬や猫やうさぎとかの動物が赤ちゃんを産んだのを見て ・死んだらあの世もない(という言葉) ・事故や自殺の小説を読んで

【この授業を終えて今感じていること】

・命は大切だと思った(12) ・命を大切にしたい(7) ・人それぞれ考えや思いが違うことが分かった(4) ・色んな人の意見が聞けて良かった(3) ・生命の尊さを感じた／わかった(3) ・普段は命を意識していなかった、改めて考えることができた(3) ・動物や虫も生きているということを感じた(2) ・簡単に傷つけたり、なくしたりしてはいけない(2) ・育児は大変で育ててくれたことに感謝 ・命が生まれるとうれしく、なくなると悲しい、いつかなくなってしまうけれど今あるならば大事にしたい ・一人一人が大切な命をもって生きている ・人との関わりが大切 ・生きることについて考え始めた ・命を無駄にしてはいけない ・生きていればなんと

かなる、自殺を考えない ・一日一日を大切に生きなければならない ・人は助け合って生きていて生命の誕生に喜びがあることが深く分かった ・3年の保育園訪問では子供や赤ちゃんを大切にしたい ・普段生きていることがまさに命なのだと思います、命を意識していきたい ・自分がつらくて死んでも周りの人は言葉にできないほど苦しむから命を甘く見てはいけない ・アリなどの小動物に気をつけて過ごしたい ・飼い犬も先は長くないので大切にしたい ・命をなくさせる殺人やいじめは絶対に許せない ・命がなくなっても思い出や物などはなくなり次の命へと引き継がれる ・命が尊いことが分かったが嫌な出来事を思い出したから複雑

5 研究の視点から

本授業を3つの視点から提案したい。

(1) 主題と資料についての提案

本授業は、改正指導要領の内容項目D(19)「生命の尊さ」について、本指導案3(1)に示すように、猟師となった著者の視点を借りて、動物の生命によって自らの生命が支えられている事実を知り、生徒がそれを受け止め、命に感謝できる授業としたい。

現代の都市部に生きる私たちは、肉を食べる際にそこに命があったことを実感として感じるのが難しい。うさぎは、猟師にとっては食料等となる獲物であり、都市に住む小中学生にとっては食料よりもペットに近い。よって著者の言う「命の線引き」が、人によって異なる動物である。人によってとらえ方が異なるうさぎの生命について考え話し合うことで、私たちが生命をいただいて支えられていることについて深く考え、他の生命への感謝の気持ちを醸成し、道徳性を高めた。

(2) 交流による資料理解についての提案

本授業は、第1の発問で、交流による資料理解を行う。生徒は発問「この題材で一番印象的だった言葉や場面はどれですか。それはなぜですか。」を受けてワークシートに記入し、次にどの部分を印象的だと感じたのかを黒板を使ってシェアした後、座席を移動しながら男女を含む3人以上と意見交換する。なお、3人との意見交換のはじめに、隣の人との意見交換を行い、共感的な話し方、聞き方について確認する。

級友の意見を聞き、自らの意見を伝えることで、相手の話から新たな気づきを得たり、その部分の資料を読み返して初見とは違った理解を得たり、自分の意見を話すことで自らの資料の理解が深まったりすることをねらいとしている。

(3) 交流による内容項目の理解と道徳性の育成

生命の尊さに関連する、著者の生き方を表す文章は、第2段落の終わり「だから、何かの命を奪うことを罪として生きていくよりは、自分が何かの命なしには生きていけないことを認めて、感謝して、自分の手で絞めたものを食べる。そういう身の丈にあった暮らしをする事が、命に対して誠実な生き方なんじゃないかと思っています。少なくとも、私はそう思っていて、そういう暮らしを実践しています。」である。授業では、これについてどのように思うかを問い、級友と交流させる。

生徒が自ら考え、級友と意見交換する中で、いろいろな考え方があることを知り、また、相手を変え、繰り返し自分の意見を述べる中で、自らの考えに確信を強めたり意見が変わったりすることを通じて考えを深めさせたい。

その時、授業者は生徒の交流の全体の様子を把握しつつ机間を回り、個々の会話の内容やワー

クシートの記述を参考にして、生徒の考えを理解する。このとき、特に自発的で積極的な交流に注目して少し大きめの声で称賛するなど、交流が深まるように支援する。また、交流に参加できない生徒や、参加しない生徒、発問に関連しない交流をしている生徒がいた場合には、前述の支援などを通じて他の生徒の動きを伝え、興味を持たせるような支援を行う。

6 本時について

(1) ねらい

命のつながりを理解し、それに応える生き方について考えをもつ（または感謝する）ことができる。

(2) 展開

時配	学習内容と生徒の活動	評価(◆)および留意点(○)
開始前	<ul style="list-style-type: none"> 黒板の主題を見る。 テレビ画面の意見交換のルールを見る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主題を板書する。 ○ テレビ画面を用意する。 ○ ワークシートを準備しておく。 ○ 名札を準備する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 主題 生命の尊さ 命のつながりの理解とこれに応える生き方 </div>		
始め 3分	<ul style="list-style-type: none"> 主題と本時のねらいを確認する。 毎時間共通の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 全員が成長し、自分と級友の成長を実感する </div> <ul style="list-style-type: none"> 著者がうさぎを手に持っている写真を見る。(テレビ画面) <ul style="list-style-type: none"> ◇かわいそう ◇ひどい ◇猟師ってそうなんだあ ワークシートを受け取る 資料を受け取る 	<ul style="list-style-type: none"> ○ テレビを使い、目と耳で確認させる。 ○ ブログの著者で猟師であることを説明する。
展開 37分 (6分) (16分)	<ol style="list-style-type: none"> 資料の範読を聞く。 印象に残る言葉や文章に印をつけながら聞く。 <ol style="list-style-type: none"> 資料の内容を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ① 一番印象に残ったのはどれですか。それはなぜですか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートに書く。 <ul style="list-style-type: none"> ◇①魚を釣って笑顔… 考えたことがなかったから ◇②何かの命なしには生きて… その通りだと思った 黒板の、自分の興味を持った番号のところに名札を貼る <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ② 男女を含む3人以上と意見交換して資料をよく理解してください。 </div> <p>【意見交換のルール】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> 話し手は自分の言葉で伝える。 聞き手は、話を聞いたあと、内容を確認する。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 黒板に番号を書き、名札を貼れるよう準備する。 ○ 5～10人程度がワークシートに書き終えたところで、黒板に名前を貼るよう指示する。(混雑を避ける) ○ 資料をよく理解することが目的であることを伝え、確認する。 ○ 意見交換のルールを伝え意識させる。

時配	学習内容と生徒の活動	評価(◆)および留意点(○)
(15分)	<p>・ 理解が違う場合は質問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 意見交換によって、資料の内容を深く理解する。 1人目はみんなで一齐に行う。 2人目からは各自のペースで行う。 (原則として) 2人組で、自分の印象に残った部分とその理由を相手に伝え、相手の意見を聞く。 相手を変えながら男女を含む3人以上と話をする。 3人以上と話をして資料をよく理解できたと思ったら、黒板の自分の名札の前に丸印をつける。 <p>3. 主発問について考えを深める。</p> <p>③ ちはるさんのいう「命に対する誠実な生き方」について、あなたはどのように思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> プリントで文章を確認し、アンダーラインを引く。 ワークシートに記入する。 <ul style="list-style-type: none"> ◇ これまで、食事の時に命についてあまり考えていなかった。 ◇ 命に感謝して食事をしたい。 ◇ 自分なりの感謝の表し方をみつきたい。 ◇ 言いたいことは分かったが違和感を感じる。 ◇ 動物を殺すところをブログにアップするのは命に対して誠実ではないと思う。 <p>④ 級友と意見交換して、お互いの考えを深め合ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒同士が意見を交換する。 終了時刻を確認する。 終わった生徒は自分の名札の前に二重丸をつけることを確認する。 共感を大切に意見交換し、お互いの考えを深め合う。 <p>(想定される生徒の行動)</p> <ul style="list-style-type: none"> 隣の人と意見交換する。 聞く姿勢が良い。 立ち歩いて仲の良い級友と意見交換する。 深い意見を言う。 新たな視点から意見を言う。 <ul style="list-style-type: none"> 意見交換できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 資料の内容を理解しているか。(会話及びワークシートで確認) ○ 資料を大きく読み違えている生徒には、「なるほど、先生の理解とは違うんだなあ。」などとつぶやき、生徒同士の話を促す。 ◆ 理由を伝えられているか。自分の気持ちが表現できているか(机間での会話の様子を確認) ※1 ◆ 他生徒の意見や気持ちを聞いているか(机間での会話の様子を確認) ※2 ○ ※1、※2によって、主発問の際に生徒への指示を調整する。 ○ プリントで文章を確認し、範読する。 ○ テレビ画面に文章を表示する。 ○ 何人と意見交換したら、また、どこまで考えたら意見を深め合ったといえるか投げかける。→ 最低人数を授業者が決めたうえで、生徒自身が最善だと思う方法で時間いっぱい意見交換するように促す。 ○ 伝えに行こうとする生徒、しっかり聞いている生徒、時間を気にかけている生徒など、前向きに学び合う生徒を見つけ、その姿勢を周りに聞こえるように称賛し可視化する。 ○ 意見交換ができない生徒がいた場合には、黒板を見たり、他の生徒を気に

